

岡山駅よりお客様へ

鳥取県 梅翁寺 住職 倉瀧英信

先日、こんなことがありました。母が外出先から戻り「列車に帽子を忘れてしまった」というのです。大切にしていた帽子だったので、母はとても残念がっていました。

私は、早速「忘れ物センター」に連絡し、帽子の形状、乗車した日や、列車名などを伝えました。担当の方は感じよく、てきぱきと話され「その帽子が届いているか確認いたします。またご連絡します」とのことでした。

翌日、係の方から連絡がありました。「お客様の帽子は、お忘れ物として岡山駅でお預かりしております。これからお送りしますので、明日にはお手元にお届けできます」と。早速、母にそのことを伝えると、とてもホツとし嬉しそうでした。

次の日、帽子は無事届きました。忘れ物の入っていた箱には、動物のイラストの入ったメッセージカードが添えられていました。そのカードには「お客様の大切なお荷物をお届けいたします。忘れ物をしたことで、不安な気持ちになられたと思います。無事お客様にお渡しでき、私たちも大変嬉しく思います」と記されていました。とても温かいメッセージでした。

私は、今回のことで気づきました。それは私自身、普段から相手

の方のことを思い、行き届いた対応が出来ているのだろうか？ということです。お寺にはいろいろな方がお越しになり、また電話をかけてこられます。その方々は、何気ない日常を話す方もあれば、ご葬儀や、ご法事の依頼、悩みの相談などさまざまです。

その中でも、仏事ごと、悩みごとは、特に相手の方への配慮が必要です。ご葬儀は遺族の心情を察し、寄り添いながら、段取りを進めなければなりません。その過程で、もしかしたら、私は、配慮の足りない対応をしているのではないかと気になったのです。

大本山永平寺を開かれた道元禅師さまは、同じ事と書く「同事」のみ教えをお示しになっています。他人がうれしいときは、自分もうれしさを味わい、他人が悲しいときには、同じように自分も、悲しい気持ちを理解して接することが大切です。

忘れ物センターの担当者は、優しい口調でこちらの状況を察し、同じ立場にたつて、寄り添うように対応して下さいました。その行いは「同事」の実践そのものでした。またその対応は、相手の状況に配慮し、迅速丁寧、温かな思いやりまで届けてくださり、私も大いに学ばせていただきました。「同事」の行いを、今以上に努めていこうと思います。